故　柴田承二　氏

故　柴田承二氏の略歴

大正 4 年 10 月 23 日	東京都にて出生
昭和 13 年	東京帝国大学医学部薬学科卒業
昭和 17 年	東京大学医学部薬学科助手
昭和 19 年	同大学医学部薬学科助教授
昭和 25 年	同大学医学部教授
昭和 28 年 ～昭和 29 年	ロンドン大学衛生熱帯医学校客員研究員
昭和 34 年	日本薬学会学術賞
昭和 43 年	東京大学薬学部長
昭和 48 年	日本薬学会会頭
昭和 48 年	日本学士院賞
昭和 51 年	東京大学を定年退官（同大学名誉教授）
昭和 51 年	明治薬科大学教授
昭和 55 年	日本薬学会名誉会員
昭和 61 年	明治薬科大学教授を退任
昭和 62 年	勲二等旭日重光章
平成 9 年	文化功労者
平成 13 年	明治薬科大学名誉教授
平成 28 年 7 月 12 日	逝去（享年 101 歳）

名誉会員　柴田承二先生のご逝去を悼む

日本薬学会名誉会員，柴田承二先生の訃報に接し，まことに痛惜の念にたえず，本会会員一同を代表し，ここに謹んで哀悼の意を表します．

先生は，昭和 13 年 3 月に東京帝国大学医学部薬学科を卒業後，昭和 17 年より東京大学助手，助教授を経て，昭和 25 年に医学部教授に就任し，昭和 28 年から 29 年まで，ロンドン大学衛生熱帯医学校の客員研究員として活躍されました．昭和43年には東京大学薬学部長に就任され，昭和51年に定年退官されたのち，名誉教授となられました．そして同年より明治薬科大学の教授に就任され，昭和61年に退任されるまで，長きにわたり教育，研究の発展に寄与するとともに，大学の運営・発展に大きく貢献されました．平成 13 年には明治薬科大学名誉教授の称号を授与されております．

研究面では，地衣，菌類の研究に大きく貢献しました．地衣に広く存在する黄色色素ウスニン酸の研究や，当時輸入米へのカビの混入が社会問題化していたイスランディア黄変米事件において，原因菌となった毒成分の構造を解明するなど，多大な成果を挙げました．また，生薬学の研究分野においては，天然薬物成分と生物活性との構造活性相関について化学的研究法に薬理試験を併用する手法で研究に取り組まれ，長らく解明されてこなかった薬用人参，甘草，芍薬や柴胡などの漢方薬の有効成分を明らかにしました．これらのご功績により，昭和 34 年に日本薬学会学術賞，昭和 48 年に日本学士院賞を受賞され，昭和 62 年には勲二等旭日重光章を受章．さらには平成 9 年に文化功労者に顕彰されました．

日本薬学会においては評議員，理事，副会頭や会頭など数々の要職を歴任され，昭和55年に名誉会員になられました．

永年にわたり日本薬学会および薬学の教育・研究において指導的役割を果たしてこられたご功績はまことに顕著であり，ここに先生のご遺徳を偲び，衷心よりご冥福をお祈り申し上げます．

公益社団法人　日本薬学会　会頭　太田　茂

柴田承二先生を偲んで

柴田承二先生が，平成 28 年 7 月 12 日に 100 歳の生涯を終えられました．いつも若々しくお元気であった先生の突然の訃報に接し，深い悲しみに沈んでおります．

柴田先生は，昭和 24 年から東京大学医学部薬学科で生薬学講座を担当され，昭和 51 年まで東京大学薬学部で，またその後の 10 年間は明治薬科大学で教育研究を担当されました．広い視野に立ったご見識と先見性に溢れたアイデアで，生薬・植物化学，天然物化学の分野で数多くの優れた研究業績を挙げられ，また多くの優秀な後進研究者を育成されました．大学運営や学会活動でも指導的な役割を果たされ，半世紀以上に渡り薬学のみならず広く日本のアカデミアを牽引され，我が国の科学の国際的な発展のためにご尽力されました．

先生のご研究は，地衣類・菌類代謝産物の研究，また東洋医学で汎用される重要生薬の研究など広範囲に渡りますが，特筆すべきものとして二次代謝産物の生合成研究を挙げることができます．世界的にも未だ実証研究の乏しかった昭和 30 年代から，放射性標識前駆体の投与実験を果敢に開始され，エフェドリンやマトリンなどの生合成経路を明らかにされました．これらの研究を学生時代に身近で見聞し，また経験したことが，私自身の研究の方向性を決定付けることになり，誠に感慨深くまた光栄にも思っております．

研究面では大変厳しい先生でしたが，研究を離れてはもの静かで，いつも微笑んでいらしたような記憶があります．絵画や音楽などにもご造詣が深く，またスポーツマンで，30 歳を過ぎてから始められたというテニスをつい最近まで楽しまれておられたとお聞きしています．卓越した洞察力，強靭な精神力，そして若者にも負けぬ体力を備えておられ，まさに超人というに相応しい先生でした．柴田先生，どうぞ安らかにおやすみ下さい．

東京大学名誉教授　海老塚　豊

キーワード　生薬，地衣，生合成，テニス，超人

Copyright © 2016 The Pharmaceutical Society of Japan